

## 第 5 学年国語科学習指導案

日 時 平成18年10月26日(木) 5校時  
場 所 5年教室  
児 童 男11名 女18名 計29名  
指導者 小笠原 恵

- 1 単元名 意見を整理しながら，目的に向かって話し合おう (光村図書「国語5年下」)  
教材名 「失敗」をめぐる (話すこと・聞くこと)

### 2 単元について

#### (1) 教材について

第5・6学年における「話すこと・聞くこと」領域の学習指導に関する目標は、「目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。」ことである。本単元は、この学年目標に関わって、児童に「話し合いの手順を理解し、目的や順序を意識しながら、計画的に話し合う力」を育てることをねらいとして設定した。

人と話し合うことは、他や自らを理解するとともに、自己実現のための一つ的手段であると言える。児童に生涯にわたって積極的に話し合いに参加する人になってほしいと願うとき、小学校段階で、「話し合っ  
てよかった。」という体験を積み重ねることが大切であると考え。そのためには、目的に向かって話し合うことで、一人では考えつかなかったよい案が生まれる、だれもが納得できる案に落ち着くなどの話し合いを行うことが大切である。そのような話し合いをすることで、新しいものの見方・考え方に気付き、参加者同士の理解が深まることと考える。また、そのような話し合いの体験をさせるには、児童が真剣に話し合える話題の選定が重要になる。

本教材は、大きく3つの学習内容で構成されている。第一次は、教材文やCDを参考にして、話し合いを進める方法を理解し、その方法を使ってグループごとに話し合う。第二次では、話題を変え、グループごとに計画を立てて、計画にそって話し合いをする。第三次は、グループごとに話し合いをふりかえり、学習を通して学んだことを発表し、感想や意見を交流する。第一次の話し合いでは、だれもがする「失敗」を話し合いのテーマにすることにより、どの児童も自分の体験談としての「失敗」を話すことができ、自分たちの日常生活の中での身近な話題として、興味を持って話し合うことができると考える。また、「自分の生活をよりよくする」という、自分たちの生活に直接結びついた目的に向かって話し合うことで、より意欲的に話し合うことができると考えられる。以上のことから、本教材は本単元の目標に適した教材であると考え。

#### (2) 児童について

児童はこれまで、話し合うことの教材として、4年下「話し合っ  
て決めよう」を学習した。そこでは、どうしたらよりよい話し合いになるのかを、CDや教科書を参考にしながら考え、そこで気付いた、「話題からそれないようにする」「賛成・反対などの立場をはっきりさせる」「体験したことや知っていることを例に挙げる」などの話し合いのポイントに気を付けてグループごとに話し合う活動をした。また、5年上「読書の世界を広げよう」では、読書会の形式で互いに話題を持ち寄り、協力して話し合う体験をした。

これらの学習を通して、児童は、話題からそれないように発言したり、賛成・反対などの立場をはっきりさせて発言したりすることができるようになってきている。自分の体験や知っていることを例に挙げて意見を出したりすることも、少しずつできるようになってきている。

学級会や日常生活の中での話し合いの中でも、互いの考えの相違点や共通点を理解しながらよりよい意見にまとめていこうとする姿勢が見られるようになった。しかし、話し合いに自信をもって参加できずに、なかなか自分の意見を言い出すことができない児童もいることから、児童にとって身近な話題で意見を出しやすく、また、必要感をもって話し合うことができる本単元の学習を通して、話し合うことへの自信を持たせ、力をつけることができるようにしていきたい。

### (3) 指導にあたって

#### 単元の指導について

「失敗」はふりかえってみればだれにでもあることだが、それを話すことに抵抗がある児童もいるであろう。そこで、第一次では、この抵抗感を取り除くことから始めたい。「『失敗』をめぐって」という教材名を提示した後、「自分の失敗」を自由に話す時間をとって、児童に自由に発言させたり、教師が自分の失敗談を語ったりして、このような話題を明るく話せる雰囲気を作ることを大切にしていきたい。そして、目的から離れた勝手なおしゃべりではなく、「目的を持った話し合い」を成功させるためにはどうすればよいかという学習であることを、児童にもしっかり押さえさせたうえで、教科書やCDを参考にしながら、話し合いの手順や大切なことについて考えておくようにしたい。

第二次で、グループごとに実際に話し合いをする段階では、初めに教科書の例にならい、「減らせる失敗はあるか。どうすれば減らせるか。」について話し合う。話し合いの手順は、それぞれの失敗談を語り合う 出された失敗談を類型化する 失敗を減らす方法を検討する の3段階である。で出された失敗は、その後、分類・整理することを考え、カードに書いておくようにする。3時間目には、まず、グループごとに話し合った結果を発表し、話し合いをふりかえる。話し合いがうまくいった理由、うまくいかなかった理由について、グループごとにふりかえり、学級全体で交流する。次に、次時の話し合いに向けて計画を立てる。自分達で話題を決めて行う話し合いでは、話し合うことへの必要感をより高めるために、テーマを学校生活にしぼり、「学校生活をよりよくするために」としたい。また、学校生活の中で感じている問題点や、改善したいことについて、日頃からカードに書いておくようにし、計画を立てる段階では、その中のどの話題について話し合いたいのかを、理由をはっきりさせて意見を出し合うようにする。さらに、グループのメンバー全員が、次時の話し合いの計画について理解できるように、何を、どのような順序で話し合うのか「話し合いカード」に書いていくようにしたい。2度目の話し合いをする際には、目的にむかって「話し合いカード」の順序にしたがって話し合いができるように、進行役を決めるようにする。

#### 研究主題に関わって

##### ア モデルの効果的活用について

本単元では、まず、教材文やCDをモデルとして、目的をもった話し合いの進め方について児童がつかむことができるようにしたい。また、第二次の1度目の話し合いでは、話し合いの様子をテープに録音しておくようにし、次時に、話し合いがうまくいったモデルとして提示し、どんなところがよかったのかを、児童が具体的に気付くことができるようにし、2度目の話し合いに活かせるようにしたい。

イ 互いのよさを認め高め合う活動について

グループごとに話し合いをしたあと、録音したテープを聞いて話し合いをふりかえり、自分達のグループの話し合いのよかった点、うまくいかなかった点についてまとめさせたい。そのうえで、だれの、どんな発言がよかったのかを具体的に挙げさせ、次の話し合いの際に、よさを活かし、意欲がもてるようにしていきたい。

3 単元の目標

<関心・意欲・態度>

話し合いの大切さを知り、進んで話し合いに参加しようとしている。

<話すこと・聞くこと>

話し合いの目的や順序を確かめ、計画的に話し合うことができる。

(話すこと・聞くこと ウ)

<言語事項>

日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

(言語 カ (ア) )

4 指導計画(全5時間)

次	時	学 習 活 動	評 価 規 準
第 一 次	1	教材文を読んだり、CD を聞いたりして、話し合いを進める方法を理解する。	関 話し合いを進める手順や大切なことについて、考えようとしている。
			話 教材文を読んだり、CDを聞いたりして、話し合いの手順を知り、話し手・聞き手の大切なことを理解している。
第 一 次	2	話し合いの目的や順序を確認し、話し合うときのポイントに気を付けて、「減らせる失敗はあるか。どうすれば減らせるか。」についてグループごとに話し合う。	関 話し合いの目的や順序を意識して、話すときと聞くときのポイントに気を付けながら進んで話し合いに参加しようとしている。
			話 話し合いの目的や順序を確認し、体験した事が聞く人に正確に伝わるように話したり、自分にも似た体験がないか考えながら聞いたりしている。 目的にそって意見と理由を区別して発言することに気を付けながら、グループの友だちと話し合っている。
第 二 次	3	グループごとに前時の話し合いの結果を発表し、話し合いの手順をふりかえり、次時の話し合いの話題を決めて計画を立てる。	関 前時の話し合いをふりかえり、前時の反省をもとに次時の話し合いの計画を立てようとしている。 話 前時の話し合いの結果を、課題と結論がはっきりと分かるように発表している。 次時の話し合いの話題について、どんな話題をなぜ話し合いたいのかを、意見と理由を区別して話している。

	4	前時に決めた話題について，計画をもとにグループごとに話し合い，話し合いをふりかえる。  【本 時】	関	前時に立てた計画をもとに，目的をもって進んで話し合おうとしている。
			話	「話し合いカード」をもとに，話し合いの目的や順序に気を付け，話題にそって話したり，話し手の意図をとらえながら聞いたりして，よりよい結論になるように話し合っている。
第 三 次	5	グループごとにふりかえたことを紹介し合い，感想や意見を交流する。	関	話し合いをふりかえて積極的に感想を交流し，今後の話し合いに活かそうとしている。
			話	学習を通して学んだことや感想を，聞き手に分かりやすく話している。

関 関心・意欲・態度 話 話すこと・聞くこと

## 5 本時の指導

### (1) 具体目標

#### ア 目標とする児童の姿

「話し合いカード」をもとに，話し合いの目的や順序に気を付け，話題にそって話したり，話し手の意図をとらえながら聞いたりして，よりよい結論になるように話し合うことができる。

#### イ 身に付けさせたい言語能力

話し合いの目的や順序に沿って，計画的に話し合う力

### (2) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入 (5分)	<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <p>(1) 前時の学習を想起する。</p> <p>(2) 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「話し合いカード」をもとに，目的に向かって，よりよい結論になるように話し合おう。</p> </div>	<p>・前時には，1度目の話し合いの結果を発表し，グループごとに話し合いをふりかえたこと，また，「よりよい学校にしていくために」という目的に向かって，どんな話題について，どんな順序で話し合っていくのか，計画を立てたことを想起させ，本時の学習へとつなげる。</p>

<p>展 開 (35分)</p>	<p>2. 本時の話し合いで気を付けることを確認する。 (1) 前回の話し合いの反省点を出し合う。</p> <p>3. 計画をもとに、グループごとに話し合う。 (1) 「話し合いカード」をもとにグループで話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の話し合いで、うまくいかなかった点について出し合い、本時の話し合いで気を付けていくこととしてまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的からそれない</li> <li>・ 計画した順序にそって</li> <li>・ 考えと理由を区別して話す</li> <li>・ 相手の考えを認めながら聞く</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いは5人ずつのグループで行う。</li> <li>・ 「よりよい学校にしていくために」という目的に向かって、話し合っていくことを全体で確認する。</li> <li>・ グループごとに、本時の話し合いの話題と順序、話し合いのめあてを確認してから、話し合いを始めるようにする。</li> <li>・ 話し合いの様子はカセットテープに録音する。</li> <li>・ 教師は各グループをまわりながら、話し合いの様子を見て指導するが、話し合いが目的からそれていたり、順序を考えずに発言していたりする場合には、児童が自分達で気付き、修正できるように助言する。</li> </ul>
	<p>(2) グループで話し合いをふりかえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いが終わったグループからテープを聞き、話し合いの様子をふりかえる。自分達の話し合いが、目的からそれていなかったか、前時に計画した順序にそって進められていたかを確認する。グループごとの話し合いのめあてが達成できたかどうかもふりかえらせ、話し合いがうまくいった理由や、だれのどんな発言がよかったかをワークシートに記入させ、お互いに交流させる。</li> <li>・ 話し合いがうまくいかなかった場合には、原因を考えさせ、ワークシートに書いておくようにする。 【手立て3】</li> </ul>
<p>終 末 (5分)</p>	<p>4. 学習のまとめをする。 (1) 話し合いをふりかえり、自己評価をする。 (2) 自己評価と感想を発表する。</p> <p>5. 次時の学習内容の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の話し合いをふりかえって自己評価をし、感想を書く。</li> </ul>

(3) 具体の評価規準

A	「話し合いカード」をもとに、話し合いの目的に向かって、よりよい結論になるように、建設的な意見を出しながら、積極的にグループの友だちと話し合っている。
B	「話し合いカード」をもとに、話し合いの目的に向かって、話題にそって話したり、話し手の意図をとらえながら聞いたりして、よりよい結論になるように、グループの友だちと話し合っている。
努力を要する子への支援	目的から話題がそれていたり、順序を考えずに発言したりしている場合には、再度、目的と順序を確認させ、「話し合いカード」にそって話し合いを進めることができるようにする。